

どのような方に胃カメラ検査を受けていただきたいか

胃がんの原因はなんと言っても、ヘリコバクターピロリ菌による慢性胃炎です。ピロリ菌による慢性胃炎の胃がん発生の危険性は、感染のない人に比べ 20 倍以上高いと言われており、**除菌治療を行うことでその危険性を 1/4 ~ 1/3 に低下させる**ことができると言われています。

そのため、胃がんの予防には積極的にピロリ菌除菌を行うことが第一ですが、**除菌後も胃がん発生のリスクがゼロになるわけではありません**。2013 年 2 月より慢性胃炎に対するヘリコバクターピロリ菌の除菌が保険適応となり、多くの方が除菌治療を受けていますが、除菌例の増加に伴い、経過観察中に発見される胃がんはむしろ増加傾向にあると考えられます。

一般に、除菌成功後は背景粘膜の炎症が消褪するため、早期胃癌の診断は容易になると考えられていましたが、**除菌治療によってかえって内視鏡的に診断が難しくなる**ことがあると知られるようになりました。

病変を見逃す可能性を考慮すると、**安易に検査間隔を延長することは避けるべきではない**と言われています。やはり、**早期発見・早期治療**がその後の予後を左右します。

除菌治療はしたけれども、しばらく胃カメラ(上部内視鏡検査)を受けていない方は、気軽に当院消化器内科を受診してご相談下さい。

また、**食道癌の罹患率は、男性では緩やかに増加傾向**にあります。特に**男性では 45 歳以降**、食道癌の罹患者が増加します。食道癌の原因としては、**喫煙・飲酒**が明らかな発生要因といわれています。心当たりのある方には禁煙・禁酒の継続を強くお勧めしますが、同時に胃カメラの検査も強くお勧めします。

上記に当てはまらないけれども、何らかの消化器症状(胸やけ・心窩部痛・腹部膨満感・背部痛・嘔気など)があるような方も、一度、消化器内科を受診してご相談される事をお勧めします。

一般的に胃カメラ検査は楽な検査ではありませんが、当院ではご希望者には鎮静剤を使用し苦痛の少ない検査を提供しています。外来部門・人間ドック部門を合わせて、**消化器内視鏡専門医**による例年多数の検査実績がありますので、安心して受診してください。

胃カメラ検査は午前がメインですが、鎮静剤を使用した胃カメラの検査後に仕事に行くことに不安を覚える方に、午後の検査を提供しています(その場合の朝食は軽食摂取が可能です)。